

Embedded DS



2015年前後に予定されていたバージョンアップは重大なソフトウェアの問題により延期されました。バージョンアップを行う場合は改めてお知らせします。

Embedded DSの使い方

従来の学認のDSでは、ログインの過程で、SP→DS→IdPという画面遷移となっていましたが、この流れでは、はじめてフェデレーションのサービスを機関IdPで認証しようとするユーザが、DSへの画面遷移で戸惑う可能性が指摘されていました。Embedded DSは、SPの中にDSの画面を埋め込むことで、エンドユーザにより直観的なユーザインターフェースを提供するものです。IdPを表示する際のカテゴリー分けにも対応しており、従来に比べて、より所属機関のIdPが選択しやすくなりました。学認では、スイスのフェデレーションSWITCHaaiの開発した[Embedded Discovery Service](#)をカスタマイズして利用しています。

Embedded DSの紹介

[Embedded DSの紹介スライド](#)

2011年の学認CAMPにおける発表スライドです。p.3～8でEmbedded DSの紹介をしています。

Embedded DSの設定方法

shibboleth2.xmlの設定

変更の必要はありません。

Webアプリケーション側の設定

従来は、ログインボタンをShibboleth認証を必要とするURLにリンクしていましたが、規定のJavaScriptをログイン画面に埋め込むことで、SP内にDSの画面が表示されます。

[JavaScriptテンプレートのダウンロード](#) (2011年11月9日更新)

以下を参考に埋め込んだHTML片を修正してください。

テンプレートからの変更箇所

- `var wayf_sp_entityID = "Embedded DSを利用するSPのentityID"`
- `var wayf_sp_handlerURL = "Embedded DSを利用するSPのハンドラURL"`
例: `https://sp.example.ac.jp/Shibboleth.sso`
以前のテンプレートでは値が異なっている場合があるので適宜修正してください。
- `var wayf_return_url = "Embedded DSを利用するSPで認証後に戻るURL"`
- `<noscript>`内のURL: Javascriptが利用できない際のDSへの直接リンク

Advancedな設定項目はこの他にもありますので、テンプレート内のコメントを参考にカスタマイズして下さい。



Shibboleth SPでないSAML実装と本Embedded DSを組み合わせる場合は、上記 `wayf_sp_handlerURL` の代わりに `wayf_sp_samlDSURL` を変更してください。テンプレート内のコメントにありますように、いわゆるDSからのリターンURLを指定するものです。また、Shibboleth SPをお使いでも `/Shibboleth.sso/DS` のパスをお使いでない場合は同様に`wayf_sp_samlDSURL` を変更してください。

既存ページに埋め込まない場合に、簡易にEmbedded DSを使用するための方法

`Form SessionInitiator(discoveryTemplate.html)`を使って実現する方法があります。→Shibboleth SPにおけるDEPRECATEDな方法のため削除済み